

県人選手 活躍に歓喜

女子砲丸投げ2位川口選手(生光学園高)

家族ら「よく頑張った」

4日に鳴門市の鳴門ボカリスエットスタジアムであった全国高校総合体育大会(インターハイ)の陸上女子砲丸投げで、2位に入った生光学園高の川口由真選手(17)。最後の1投で大会の14分台に乗せる投てきを繰り出し、順位を一つ浮上させる逆転劇となった。観客席の家族や恩師は「最後まで諦めずによく投げた」「努力が報われて良かった」と健闘をたたえた。

(1面参照)



きを見せると、応援席は大の努力を知る母めぐみさん(52)は「こつこつと頑張る子で、やってきたことは裏切らないと信じていた。よく頑張ったと抱きしめてあげたい」と喜んだ。

スタンドには同校の選手や保護者、学校関係者ら約30人が陣取った。ファウルや失投が続き、4位で迎えた最終6投目。14分ラインを超えるこの日最高の投てきを見せると、応援席は大の努力を知る母めぐみさん(52)は「こつこつと頑張る子で、やってきたことは裏切らないと信じていた。よく頑張ったと抱きしめてあげたい」と喜んだ。

同校OBで、川口選手が砲丸投げを始めるきっかけとなった兄哲生さん(25)は大阪府東大阪市にも駆け付けた。自身もインターハイでは2年時に4位、3年時は3位に入っており「3年生はプレッシャーがかかって結果を出すのが難しいが、よく投げた」と妹の活躍に目を細めた。

同校勢としては、2020年の代替大会を含むインターハイでの連続入賞を15年に伸ばした。川口選手を中学時代から指導している陸上部の林英司監督(61)は「最後は彼女のメンタルの強さが発揮された。連続入賞の重圧もあったと思うが、地元大会でよくやった」と称賛した。(石津達)



川口選手に拍手を送る(右から)母めぐみさん、兄哲生さん、父正洋さん＝鳴門市の鳴門ボカリスエットスタジアム